

研究成果（品種）リーフレット

秋はるか

暑さや病害虫に強く
多収の業務用米



減農薬による低コスト栽培に適しています。



NARO 農研機構

九州沖縄農業研究センター

秋はるか

暖地に適した中生（なかくて）で、病害虫に強く多収の業務用米品種です。

暖地に適し多く取れる

- ・「ヒノヒカリ」並の出穂・成熟期で暖地に広く適します。
- ・「ヒノヒカリ」より約15%多く取れます。
- ・ご飯の粘りは「ヒノヒカリ」ほど強くなく、業務用に向いています。

品種名	出穂期 (月・日)	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米 重 (kg/a)	同左 比率 (%)	千粒 重 (g)
秋はるか	8.28	87	322	56.7	115	22.9
ヒノヒカリ	8.25	83	343	49.4	100	22.6

品種名	ご飯の食味	
	総合 (5優～-5劣)	粘り (3強～-3弱)
秋はるか	-0.33	-0.25
ヒノヒカリ	0.11	0.04

(福岡県筑後市 6月中下旬移植(2011～2016年))

高温でも米品質が優れる

- ・高温で実っても玄米の品質は「ヒノヒカリ」より明らかに優れています。



秋はるか

ヒノヒカリ

(黄色の丸は高温により玄米が白濁した箇所を示す)

解説

「秋はるか」の高温登熟耐性は“やや強”で、「ヒノヒカリ」の“弱”より明らかに優れ、暑さに強い品種として知られている「にこまる」の“中”よりも優れています。

トビロウカに抵抗性がある

- ・トビロウカによる被害を受けにくい特長があります。



(2016年9月中旬)

解説

「秋はるか」は、トビロウカに抵抗性の遺伝子を持っています。「秋はるか」のトビロウカ抵抗性は、「にこまる」の“弱”に対し、“中”程度を示します。

いもち病などの病気にも強い

- ・葉いもち、穂いもち、縞葉枯病に強い特長があります。

品種名	病害抵抗性			
	葉いもち	穂いもち	白葉枯病	縞葉枯病
秋はるか	強	強	やや弱	抵抗性
ヒノヒカリ	やや弱	やや弱	やや弱	罹病性



ヒノヒカリ

秋はるか

にこまる

解説

「秋はるか」は、いもち病に強くなる遺伝子2個と縞葉枯病に強くなる遺伝子1個を持っています。

(本資料に関するお問い合わせ先)



農研機構九州沖縄農業研究センター 産学連携室

〒861-1192 熊本県合志市須屋2421

TEL: 096-242-7682 FAX: 096-242-7543

E-mail: q_info@ml.affrc.go.jp

ホームページ: www.naro.affrc.go.jp/karc

(2019.2 作成)